

## 2025 年 3 月期第 2 四半期決算説明会（対面+WEB 説明会） 質疑応答議事録

日 時 2024 年 11 月 15 日（金） 13:00～14:00

説明者 代表取締役 社長執行役員 魚住 吉博

経理・財務本部長 今井 英樹

Q1. 上期に比べ下期の見通しが良い理由は何か？

A1. 上期よりも下期の方がお客様の生産台数が増える見込み。

Q2. 中国ビジネスは今後どうしていく見通しなのか？ローカルメーカーへの拡販状況は？

A2. 中国のローカルメーカーにも拡販活動を行っているが、価格競争が大変厳しい状況。今回、天津にあった生産拠点を 2 社から 1 社に集約を行う決断をした。これまでは人の能力を台数に合わせて調整してきたが、いよいよ設備にまで手を打つ状況となってきた。

Q3. 米政権交代による関税、移民政策などの影響はあるか？

A3. 貿易取引はとても少ない為、輸入関税の影響はほとんどない。ただし、物価上昇が再燃する可能性はある為、お客様と相談して価格転嫁を進めていきたい。

Q4. トヨタグループ内の持ち合い株解消や、BEV 化対応に向けた同業他社との統合などの議論はあるか？

A4. どちらもトヨタ自動車様の意向抜きでは当社からお話できることはないが、社内では持ち合い株解消については様々なシナリオを検討している。BEV 化についても市場を注視しながら、どの様な市場環境になっても対応できる様に開発を進めている。

Q5. 2024 年 8 月にインド事業企画室ができたとのことだが、今後のインドビジネスの見通しや設備投資計画は？

A5. 唯一市場が伸びる地域だと考えている。スズキ自動車様の事業拡大に伴い、一緒になって対応していく計画。設備投資は過剰にならない様、適切なタイミングで行っていきたい。現在は排気系部品しか行っていないが、ボデー部品についても検討している。

Q6. 営業利益の増減分析にある合理化改善とは具体的にどの様な活動なのか？

A6. 損益分岐点を下げる為の生産性向上活動や工程内不良の減少など。

Q7. BEV 化が鈍化しているが、期初からの計画に変わりはないか？

A7. 期初お伝えしたのは、2030 年のグローバル新車販売台数の 40%が BEV に代わり、売上

の10%強が減少する見込みと言うもの。現時点では、数字を変えるタイミングではないと考えている。市場を見ながら、来年の次期中計で示したい。

以上